

特定非営利活動法人

ポラリス



2017 年度事業報告

2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

■2017年度 事業報告

【プロローグ】ポラリスの活動の定着、そして持続可能な活動をしていくために。

ポラリスの活動がスタートして3期目である2017年度。

これまでの活動成果をステップに、「障害を持つ人も持たない人も、素敵に生きて、はたらく」こと、みんなの「Happy」を目指し、被災した過疎地域の「弱者支援」「心身のケア」「地域創生」に目を向けながら活動を進めました。

ポラリスの目標は、基盤整備から、人材育成に重点を置いた持続可能な活動へと移行しています。

【主な取り組み】

- 自主事業である障害者就労継続支援B型事業 ～すてきにはたらく・たのしむ・まなぶ～
- スタッフの人材育成～被災地で暮らす障害者の素敵な生きかた・はたらき方を支援する人材育成～
- 生涯学習とソーシャルワーク ～障害者をつくる「山元の魅力」を発信するプロジェクト～
- 震災復興×過疎地での地域創生×ケア
 - ～被災した障害者と家族の生活再建を応援するプロジェクト～
 - ～被災障害者の生きる力を取り戻す芸術・文化体験旅行 2017～

【1年間の振り返り】

東日本大震災から7年余りの月日が経ちました。被災して仮設住宅に暮らしていた障害者とその家族は、現在は復興公営住宅で生活を始めています。これからが将来に向け、本当の生活再建を進める時期となりました。そういう状況を見守り、タイムリーに、そしてより柔軟に、ポラリスとして支援できることは何かを模索し活動した1年でした。

また、自主事業である障害者就労継続支援B型事業では、ポラリスに通うメンバーひとりひとりの「はたらく」「たのしむ」「まなぶ」を応援しています。日々の活動としては、地域全体をフィールドにした施設外就労の活動をより広げることが出来、いちご栽培施設や高齢者施設での就労支援が叶い、まさに農業と福祉の面で障害者が活躍できる可能性を感じた年でした。また、2016年9月にオープンした「ポラリス『こう・ふく』アトリエ」では、ポラリスがアート活動を始めてから3年の歩みと成果を紹介する「ポラリスアート『春うらら展』」を開催することが出来ました。その中で、これまでのアート活動を振り返り、多くのメンバーが、「アート活動は、私たちにとってなくてはならないもの。」という思いを言葉や行動、作品で表現してくれました。

更に、9月には、再開したばかりのJR常磐線山下駅から電車に乗り、憧れの新幹線にも乗って「東京芸術研修」が実現しました。1年以上前から、「東京でライオンキングが観たい！」という思いをもって、お金を貯める、体力をつける、マナーを学ぶなど、様々な生活や社会のスキルを学ぶ事に真剣に取り組むメンバーの姿がありました。

「生涯学習とソーシャルワーク」という視点での活動の意義を実感した1年となりました。昨年11月に完成したフレスコキクチ山下駅前店の壁画『Happy やまのもと』をもとに、学術、デザイン、編集などの専門家の力をお借りし、山元の魅力を「ポラリスによる対話と学びの場『学ぼう！山元のすごい歴史』全3回」で地域の皆さんと大いに学び、山元町の協力も得て、その成果として“山元の魅力を発信する”冊子『山元ものがたり』を制作することが出来ました。

楽しみや目指すことがある日々の活動は、はたらく意欲や自己肯定感につながっています。

■事業内容

[総務]

1. 会議等の業務

(1) 第2回通常総会の開催

日時：2017年6月3日（土）10：00～12：00

●2016年度事業報告（案）・活動計算書（案）の承認

●2017年度事業計画（案）・活動計算書（案）の承認

(2) 理事会の開催

◎2017年5月29日（月）9：00～18：30

●2016年度事業報告（案）・活動計算書（案）の承認

●2017年度事業計画（案）・活動計算書（案）の承認

◎2017年8月1日（火）18：00～9：30

●請求事務及び会計事務用パソコンのリプレースの承認

◎2017年10月27日（金）18：00～18：30

●職員の賞与支給の承認

●法人車両購入の承認

◎2017年12月12日（火）18：00～18：30

●欠員補充のための常勤職員1名募集の承認、他

◎2018年1月9日（火）18：00～18：30

●常勤採用までの臨時職員雇用の承認

●常勤職員（2018年2月～）1名採用の承認

◎2018年2月15日（木）18：00～18：30

●常勤職員（2018年4月～）1名採用の承認、他

◎2018年2月22日（木）18：00～18：30

●退職金制度導入の承認

(3) 監査

◎2017年5月29日（月）15：00～16：30

●2016年度事業報告（案）の監査、承認

●2016年度活動計算書、貸借対照表、財産目録の監査、承認

2. 会員に対する業務

●正会員・一般会員の入会、継続、休会に伴う業務を行いました。

●2016年度事業報告・活動計算書及び2017年度事業計画・活動計算書を送付しました。

●事業の案内や報告の資料を随時、送付しました。

3. 経理などの業務

●資金管理として、現預金などの日常の管理状況を明確にしました。

●税務に関する業務として、源泉徴収税等の税務関連の業務を行いました。

●石田秀男税理士事務所に税務その他について業務を委託しました。

4. 労務管理などの業務

●法人に関連する人事労務管理、労働保険や社会保険関係の手続きに関する書類作成・届出、法改正および助成金に関する情報提供などの業務について、社会保険労務士法人プロゲートに委託しました。

5. 総務関連などの業務

●業務運営に必要な届出業務を行いました。

●NPO法人としての宮城県への2016年度事業報告・活動計算書を提出しました。

●ポラリスの使用貸借契約について賃料の変更を締結しました。

●日本NPOセンター・テックスーププログラムより、Adobeソフトを導入しました。

6. 広報などの業務

●ウェブサイト、フェイスブックを活用した広報活動を行いました。

●ポラリス活動報告書を作成し、広報活動を行いました。

[自主事業] 障害者就労継続支援B型事業ポラリスの運営

- 1. 事業所名 就労継続支援B型事業所ポラリス
- 2. 事業開始年月日 平成27年8月1日
- 3. 利用者定員 20名
- 4. 従業員数 管理者1名
サービス管理責任者1名（管理者と兼務）
職業指導員 1名（常勤専従）
生活指導員 3名（非常勤）
目標工賃達成指導員 1名（常勤専従）

5. 当年度重点事業目標

- 利用者登録は22名のうち、一日平均の利用者数が12名となることを目指し、サービスのより柔軟、充実化を図りました。
- 利用者や相談者への柔軟で丁寧な対応を心がけ、「よくはたらき、よくあそび、よくまなぶ」をモットーに、地域でいきいきとした生活を送れるよう支援に努めました。

6. 基本方針

私達は、障害者が様々な面での地域再生の担い手として活躍し、福祉と産業がコラボした新たな地域福祉の創造、そして障害を持つ人も持たない人も、生きがいを持って輝きながら暮らしはたらく事ができる地域社会の創造を目指し、魅力的な山元町の地域福祉に貢献しています。

- 障害を持つ人が地域の中で豊かな人間関係を持ち、様々な面で地域の担い手となりいきいきと働くことを支援しました。
- 障害をもつ人が学ぶという生きがいを持ち、その上で自分らしい自立のあり方を考え行動することができるよう支援しました。
- 障害者福祉に関わる人が心のケアや地域福祉について学びより良い障害者福祉の発展・継続に努めました。

7. 通所状況

	開所日数	登録者数	のべ利用者数	1日平均利用者数
	(日)	(名)	(名)	(名)
2015年度	174	16	1438	8.3
2016年度	291	22	3006	10.3
2017年度	278	22	3208	11.5

	登録者数	割合
ほぼ毎日	10	45%
週3回	6	27%
週2回	1	5%
週1回	1	5%
その他	4	18%

利用日数別利用者数（名）

	登録者数	割合
山元町	15	68%
亘理町	4	18%
柴田町	1	5%
岩沼市	1	5%
新地町	1	5%

市町村別利用者数（名）

8. 作業内容・提供サービス

■就労訓練

○施設外就労（清掃・箱折り・苺の加工・商品搬入搬出・その他）

月	(株)GRA		(株)和苺	(株)キクチ	花の店 しなほり	デイサービス 御園
	施設清掃	いちご狩り 関連業務	苺加工 その他	資源物 回収受付	生花の 搬入搬出	窓拭き その他
4	↑ ↓	↑	↑	↑ ↓	↑ ↓	↑
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
1						
2						
3						



▲和苺での施設外就労の様子

■表現・創作活動の支援

ポラリス『こう・ふく』アトリエでの「地域のアトリエ」活動

ポラリス事務所から徒歩圏内にある民家をお借りしてのアトリエ活動は2年が経ちました。アトリエは、障害のある人と地域の方々が一緒に集えるような場づくりを目指してきました。ポラリスのアーティストたちは、「アトリエは、魔法がかかったみたいに楽しくアート活動ができる場所」と話してくれます。



■その他の支援

- 生活訓練 ○余暇活動 ○生涯学習 ○作業訓練

月	表現・創作活動		生活訓練～余暇活動～生涯学習～作業訓練				
	アートな寄せ植え	アート活動など	生活訓練	余暇活動	生涯学習	出張カフェ	作業訓練
4		描画 はりこ ししゅう	調理実習	お花見			庭の掃除
5			身だしなみ		歴史勉強会		所内清掃
6			宿泊・持ち物				トイレ掃除
7	花の勉強と選定		調理実習	東北障害者 芸術公募展			味噌汁づくり
8	アートなプラン ターづくり・土づくり		服薬・お金	芋ほり	茶道勉強会		洗濯干し・たたみ
9		東京芸術研修（アート～宿泊～移動～マナー）				鷲峰会コンサート	アイロンがけ
10	花苗植込み	描画		サーカス鑑賞			洗車
11	手入れ・苗交換	はりこ	JR利用	芸術鑑賞	茶道勉強会	芸術鑑賞会	木キット組立
12		ししゅう	調理実習	クリスマス会	「山元ものがたり」 制作	岩瀬ファミリー クリスマス	資料とじ
1		アート展準備		初詣・食事会			
2			調理実習	わらび座公演			郵送作業
3	春の苗交換	春うらら展		芸術鑑賞	茶道勉強会	春うらら展	事務補助

10. 保護者、ボランティアとの連携

月	活動名
4	保護者カフェ
6	ボランティア定例会
8	ボランティア定例会
1	ボランティア定例会
2	保護者カフェ
3	ボランティアと保護者の意見交流会



[企画事業]

1. スタッフの人材育成

「被災地で暮らす障害者の素敵な生き方・はたらき方を支援する人材育成2」

東日本大震災現地 NPO 応援基金 大和証券フェニックスジャパン・プログラム2016
 実施期間：2016年10月～2017年9月

(成果)

基盤整備のための最も大きな目標である“事務局を担える人材育成”を、2年間のフェニックスジャパン・プログラムの助成支援をいただいて、しっかり進めることが出来ました。様々な研修や経験を持たせた事と本人の努力もあり、法人運営の事務・会計・労務などの管理業務を担い、現場での障害者や心のケアが必要な方の直接支援も信頼して任せることが出来るリーダー的職員の育成につながりました。私たちポラリスのNPO活動、そして障害者支援が持続可能な活動となるために、人材育成は今後も重要な課題、目標と考え、取り組んでいきます。

月	活動内容	場所
4	南三陸町 のぞみ福祉作業所 視察	南三陸町
5	人材育成研修(フェニックスジャパンプログラム)	仙台市
7	町田市 らまの視察	町田市
8	郡山市 NPO法人しんせい視察	郡山市
9	パナソニック×宮城県南地域 情報交換会 参加	ポラリス/丸森町
10	権利擁護研修会 参加	山元町
10	自閉症支援研修会 参加	山元支援学校
12	サービス管理責任者研修 指導協力	仙台市
2	ケアする人のケアin熊本 出席	熊本市
2	亘理郡関係者連絡協議会 参加	山元支援学校
3	福島市 発達障害セミナー 参加	福島市



2. 「春うらら展」開催

開所当時からアート活動を行ってきたポラリスは、「こう・ふく アトリエ」を会場にメンバーの作品を展示するアート展を行いました。準備においてはメンバーも積極的にに関わり、会場では日頃のアート活動の成果を展示発表すると同時に、作品を販売し売り上げをメンバーの工賃に還元しました。また、「アートなお茶会」やカフェも開催し、メンバーもスタッフとしてお仕事をし、お客さんとの交流も楽しめました。

開催日時：平成 30年 3月 8日、10日、13日、15日 の4日間 AM10:00—15:00

会場：ポラリス「こう・ふく アトリエ」
 (宮城県亘理郡山元町高瀬字合戦原30-2)

4日間の入場者数：約 80名

4日間の売り上げ(作品・商品) 203,500円



(感想)

- 自分の作風が出来ていてすごいです。
- とても心穏やかになった。
- 皆さんの作品に出会うとほっとします。
- 大きな絵もあって、「描き切って！」って感じです。刺繍もすごく気になります。刺しゅう展もしてください。

3. 障害者をつくる「山元の魅力」を発信するプロジェクト

2016年度ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援
実施期間：2017年1月～2018年1月

（目的）

地域で孤立しがちな障害者や心身のケアが必要な中堅世代などの市民が、楽しく気軽に山元町の魅力に触れる「対話と学びの場」に参加し、「学ぶ」という楽しさと、新たな人とのつながりをつくりました。その学びの成果として、山元町の魅力を紹介する冊子「山元ものがたり」を制作しました。そのことによって、地域住民や山元を訪れる人に、山元の魅力を共に伝え広めていくという社会参加の機会を作り、地域で素敵に生き、はたらくことにつなげました。

（内容）

●「学ぼう！山元のすごい歴史（全3回）」開催

第1回：50名、第2回74名、第3回84名、合計208名が参加しました。

「山元の歴史」についての対話と学びの場をつくり、世代や立場を超えて、山元の魅力を再確認する機会をつくることができました。このプロジェクト自体にも多くの共感を得ることが出来、障害者支援でつながっている福祉コミュニティの枠を超えて、これまでつながる機会がなかった方々と大いにつながることも出来ました。特に障害者や心のケアが必要な方々やそのご家族が、堂々と、そしていきいきと学ぶことを楽しんでおられたことが印象的でした。歴史に興味があるメンバーたちが、この勉強会に参加するために、しっかりと体調管理する姿があり、「学ぶ」ことの意義をリハビリテーションの面からも感じる事ができました。



●冊子「山元ものがたり」制作

障害者と共にこのような生涯学習の成果物の冊子制作をしたのは初めての試みでした。わかりやすく、そして山元の魅力を記憶してもらえるように、デザイナーとアートスタッフが相談しながら、ポラリスアーティストのイラストをうまく取り入れることにも力を入れました。アートを担当したメンバーが趣旨を理解し、丁寧に描き上げていきました。アートでの参加のほかにも、勉強会開催のための資料準備、会場準備、受付、出張カフェ、あて名書きを含む郵送業務など、このプロジェクトを進める上で必要な作業に取り組み、新たな障害者の社会参加の在り方として大きな成果をあげられ、また今後もこの経験を基に大いに地域でいきいきと活動を進めることが出来ると期待します。



●冊子「山元ものがたり」の頒布

「学ぼう！山元のすごい歴史」全3回に参加された全員に、この冊子を頒布させていただきました。

また、2018年2月から3月にかけて、町内の中学3年生に卒業記念として贈りました。山元町には高校がなく、中学を卒業すると町外に通学となるため、その前に「山元の魅力」を知ってもらい、先人の功績に誇りを持ちながら、山元町の将来を担う人材になる子供たちの成長を願います。

また、ポラリスを利用する障害者や心身のケアが必要な方と、この冊子を今後地域勉強会の資料として活用し、町の魅力を周囲の方に伝えることが出来るようになることも進めます。是非、冊子を基にした地域の方との勉強会も継続して続けていきたいと思います。

4. 被災障害者の生きる力を取り戻す芸術・文化体験旅行 2017

公益財団法人 木口福祉財団 平成 28 年度被災地復興助成

実施期間：2017 年 4 月～2017 年 9 月

(目的)

東日本大震災で被災した障害者が、生きる力を取り戻すために、日本を代表する芸術・文化に触れることができる東京への体験旅行を企画実施する。

(参加者) 24 名 (障害者 11 名・家族 2 名・ボランティア 6 名・職員 5 名)

(研修希望者の生活訓練プロセス)

3月	・東京に行くための定期的面談(必要な生活訓練内容について)開始 ・お金の勉強(買い物ゲーム、お金の数え方、など)
6月	・ビジネスホテルでのマナーについて考え合おう ・普段(通所時)の持ち物について個別に助言し、定着を図る ・障害者手帳の使い方 ・JR常磐線利用の練習(仙台へ行く)
7月	・交通機関利用と宿泊のために必要な個別スキルトレーニング ・研修行程の説明と、研修上の注意事項の説明 ・トイレ、暑さ対策、公共マナー等、駅弁メニューの話し合い ・しおり配布と内容確認。参加者との個別面談(心配な事を共有する) ・元JR職員の方を講師に迎えた新幹線と電車についての勉強会
8月	・こづかい、お土産を考える。持ち物を考える。個別面談 ・これまでの各自振り返り(頑張ったこと、これから頑張ることができるようになる事) ・支援学校の先生を講師に迎えた「修学旅行あるある失敗」アドバイス ・「こづかい計画」「自分のお薬のメモ」の記入。お土産の買い物練習。 ・服薬を個別確認。コミュニケーション(会話とマナー)についての指導。 ・健康管理についての助言。コミュニケーション実践トレーニング ・「しおり」の資料追加(座席表、持ち物)についての説明
9月	・ホテルにあるもの、自分で持っていくものについての説明 ・持ち物のリハーサル(各自持参してスタッフと確認)



(実施日) 2017 年 9 月 14 日 (木) ～15 日 (金)

(研修行程内容とその成果)

J R 常磐線+東北新幹線+京浜東北線の体験

- ・公共交通機関の利用を学ぶ

劇団四季ミュージカル「ライオンキング」観劇

- ・独創性あふれる美術、衣装、パペットで表現される「ライオンキング」を観劇する体験

国立西洋美術館常設展を鑑賞

- ・世界を代表する作品を鑑賞することでたくさんの刺激を得る体験

ビジネスホテルへ宿泊

- ・宿泊体験
 - ◎仲間と信頼関係の構築(仕事以外で仲間と助け合う体験)
 - ◎社会性の向上(社会マナーを守ることを学ぶ体験)



▲東京シティーボーイ!

▲記念にお土産を買いました

▲国立西洋美術館で世界の名作に感激!

5.被災した障害者と家族の生活再建を応援するプロジェクト

東日本大震災復興支援 JTNPO 応援プロジェクト
中間報告(2017年7月～2017年12月)より

(実施背景)

震災から6年が経つ山元町では、復興公営住宅が完成し、いよいよ一人一人の本当の生活再建の時期になりました。そのような中、当団体とつながっている被災した障害を持つ方からは、やっとその住宅で暮らせるものの、一人暮らし、又は高齢な親と同居というケースが多く、住居は快適になっても、近所と付き合いが苦手でひきこもりがちであり、「夜になると不安でしょうがない。」「親が死んだらどう暮らして行けばよいか不安だ。」という相談を受けていました。彼らは、生活困窮、交通弱者でもあるために、孤立しがちであり、精神科通院や加齢により別の病気も抱える方が増えていますが、本人ではその複雑な体調不安定をうまく説明できず、的確な治療まで進まず困っている人が多い現状でした。また、震災で被災した知的障害等のある方の生活力(スキル)は、狭い仮設住宅での5年余りの生活で、身体を動かさず、体力をはじめとする生きる力が著しく衰えてしまっていました。

(実施内容)

生活再建を始めるこの時期に、被災した障害者やその家族へ、敷居が低く柔軟な心のケア支援を行い、そこから課題の改善を一緒に考え、自分達だけでは改善できない困り事への支援(通院引率、買物引率、外出支援、孤立予防、仕事づくり、生きがいつくり等)を、地域住民(特に、被災して同じ地域に暮らす住民の方々)に協力を得、共に活動して、障害者を含む被災した人たちが内なる力を取り戻し、生活再建を進める力をつけていく事を応援しようとのプロジェクトを企画しました。

このプロジェクト実施により前半期では、下記の①～⑤を意識して活動しました。

- ① 気軽に何でも相談できる場の提供で、一人、または親子のみで悩みを抱えこんでしまうことを防ぐ。
- ② 日々の中や「心のケアカフェ」で、心のケアについて学んでもらう。
- ③ 生活再建のための生活の張り合い、希望を持つ一歩を寄り添う支援や様々なプログラムで応援する。
- ④ 活動から自然に生まれる地域の方との交流で、人と人とのつながり支え合う関係づくりを進める。
- ⑤ ボランティアをしてくださる人材と有意義な活動機会が広がることに努め、障害者や家族にとってのインフォーマルな資源を増やしていく。

(成果)

○療育手帳がないために様々な優遇が受けられなかった男性について、行政担当者とも連携し、検査機関に引率同行することで、手帳取得が実現しました。

○震災で口腔ケアがおろそかだった障害のある一人暮らし男性の歯科通院を支援することで、不安を軽減し本人も入れ歯をつくる意欲が出て、歯科医師の丁寧な指導もあり、無事「総入れ歯」を作ることが出来ました。

○一人暮らしの男性の携帯電話料金を節約するため、様々な意識付けとショップへの引率同行を行ったことで、本人も携帯電話について利用を節約する意識が徐々につき、生活費の心配が少し軽くなりました。

○障害や心のケアが必要な当事者や家族が、学ぶこと、楽しむこと、地域を明るくする活動(仕事)などの「社会参加」や「生涯学習」の場の提供で、表情が明るくなり、地域生活に張り合いが出てきたと実感します。

地域を明るくする「はたらき方」アート&園芸



6. 心のケア事業

みやぎ心のケアセンターの精神科医師らの協力で「心のケアカフェ」を2017年度も継続することが出来ました。自分や、周りの人の心のケアのために参考になる内容を学び合いました。少子高齢化、人口流出、生活困窮者増加が深刻な山元町で、地域づくりを目指す者が「地域福祉」「心のケア」の知識を、ビジョンの基礎としてもつことが重要と考え、今後も必要に応じた方法で開催していく予定です。

(協力) 福地成先生 (みやぎこころのケアセンター精神科医師)、ほか

7. ポラリス基金

2016年4月、「平成28年熊本地震」が起き、私たちは「ポラリス基金」を設立しました。熊本で被災した支援の届きづらい障害のある方をはじめとする弱い立場の方へ、東日本大震災で被災した際に全国からたくさんの温かい支援をいただいた山元町からも応援したいという思いを、町内はじめ全国のつながっている人たちにお伝えし、皆様からたくさんの支援金のご協力をいただきました。ポラリス会員の皆様はじめ、様々な立場や業界の方から、予想をはるかに上回る応援が届き、弱者支援の必要性をご理解くださる皆様のお気持ちにとても勇気をいただきました。心より感謝を申し上げます。

2017年度は4月に熊本・こころをつなぐよか隊ネット事務局が企画実施する みなし仮設向け支援活動「つながるC a f e」を応援し、カフェで使用するカフェ器具一式を寄付させていただきました。

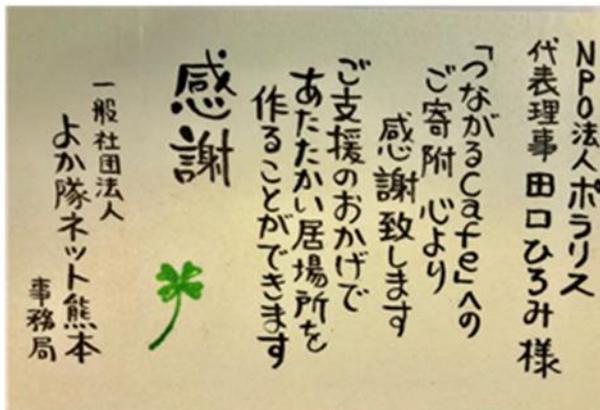
「つながるC a f e」について ※熊本・こころをつなぐよか隊ネット事務局の企画書より

■目的

- ◎点在するみなし仮設で住む方々が、気軽に足を運んで交流し合える「場」作りを行う。
- ◎様々な情報（行政からの支援、ボランティア情報等）を提供できる場をつくる。
- ◎交流の過程で信頼関係を構築し、困りごとなどの相談支援に結び付けていく。

■開催時期 週1回～2回程度 定期開催

■開催場所 熊本市内を中心とした各所。(公民館など公共施設の活用)



■ポラリス基金での応援

「つながるカフェ」に参加される皆さんが、楽しく交流ができるように、コーヒーを淹れる体験（勉強会）ができるよう、必要なカフェグッズを提供（寄付）しました。

(内容) ポラリスマグカップ・IH調理器・IH対応ケトル
卓上ポット・コーヒーミル・ドリッパー・サーバー
コーヒー豆・コーヒーフィルター・収納ボックス
その他(計 215,529円)



活動についての紹介・報告		
	紹介・報告先	企画事業(イベント)名
5月14日	ウィメンズアイ	「グラスルーツ・アカデミー東北」2017in宮城 ～地域で活動するあなたのための、つながりづくりと学びの場～
5月28日	東北文化学園大学	きらきら輝くみちのくフォーラム「地域を活かす地域を創る」～女性が紡ぐ想い～
9月2日	パナソニック	パナソニック100周年プロジェクト 山元・丸森・角田フィールドワーク
2月10日	住友生命福祉文化財団&たんぼぼの家	ケアする人のケアセミナーin熊本 ～地域共生社会をめざして～
メディア・新聞掲載		
	掲載先	テーマ・見出し名
4月1日	宮城県中小企業家同友会 DO YOU みやぎ	今月のテーマ「つながる力」～新しい東北を切り開く 人をつないで新しい仕事づくり～障害者の活動支援～
5月25日	西日本新聞	アリのモノ語り① 藤野幸子「東北から届いた一筆箋」
6月1日	WAM 独立行政法人福祉医療機構 2017.6	いきいきチャレンジ / 特定非営利活動法人ポラリス
6月16日	河北新報	「歴史学んで町に誇りを」山元・NPO「ポラリス」が勉強会開始
6月24日	河北新報	学校法人東北文化学園大学「輝くみちのくフォーラム」 女性の視点で起業 地域を元気に 講演「地域の縁を活かす・縁を創る」
9月1日	ビッグ イシュー 日本版	心もからだも健やかな社会の実現に向けて～ファイザープログラム 宮城県山元町NPO法人ポラリス
3月25日	河北新報	「歴史学び復興の力に」山元、NPO、勉強会の成果冊子化

応援ありがとう

特定非営利活動法人アートワークショップすんぷちよ、一般社団法人RCF、石田秀男税理士事務所、NPO法人ウィメンズアイ、特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、桜美林大学学生ボランティア、大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会、角田妄想会議、合戦原区、河北新報社、(株)キクチ、公益財団法人木口福祉財団、キッズおりの木茅ヶ崎、久留米八女ボランティアを支援する有志の会、NPO法人クロスロードアーツ、劇団短距離男道ミサイル、こげら合唱団、(株)シージーシージャパン、(株)GRA、特定非営利活動法人GRA、特定非営利活動法人市民社会創造ファンド、一般社団法人シャロームの会ベーシック憩、就フェアみやぎ、鷲峰企画、JEBDA、称名寺、(株)スルーエイジ、石州清水流、(有)仙台クリンネスサービス、医療法人多布施クリニック、一般財団法人たんぼぼの家、大和証券フェニックスジャパン・プログラム、伊達ルネッサンス塾、認定NPO法人地星社、合同会社つながる木っと、学校法人東北文化学園大学、徳本寺、ドイツ語婦人会、東京日本橋ライオンズクラブ、東北歴史博物館、TRAC、(株)和莓、西日本新聞社、(株)日幸電機製作所、特定非営利活動法人日本NPOセンター、Person-Centered-Planning研究会、パナソニック(株)OYAKUDACHI2.0探求プロジェクト事務局、花の店しなほり、PMJ歯科、(有)ビッグイシュー日本、特定非営利活動法人100年福祉会、ファイザー(株)、NPO法人フードバンクAGA IN東北、独立行政法人福祉医療機構、一般社団法人ふらっとーほく、社会保険労務士法人プロゲート、特定非営利活動法人ほほえみの会、ポップサーカス仙台公演事務局、一般社団法人まなびの森、三重県立心の医療センター、みやぎNPOプラザ、宮城県教育委員会、宮城県社会福祉協議会、宮城県中小企業家同友会、みやぎ心のケアセンター、特定非営利活動法人麦の会こっぺ、麺とごはんの店見晴、公益社団法人モリウミアス、モリノポリタン、八重垣神社、社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房、山元町、山元町教育委員会、山元町社会福祉協議会、山元町歴史民俗資料館、山元町立坂元中学校、山元町立山下中学校、やまもと民話の会、山元ライオンズクラブ、ゆかりの茶室にひかりをあてるっちゃGO山元いい茶組、NPO法人互理いちごっこ、ライオン運輸(株)、ライオンズクラブ国際協会330-A地区、ライオンズクラブ国際協会332-C地区、霊友会「ありがとうこだま基金」、個人25名

ほかたくさんの方から、あたたかいご支援とご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

【組織概要】

設立年月日 2015年5月14日
代表理事 田口 ひろみ
理事 品堀 学 佐藤 路代
監事 大山徳江
会員数 正会員 13名
一般会員 99名 (2018年3月31日現在)
住所 〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原72番地64
TEL/FAX 0223-36-7410
MAIL koguma@polaris-yamamoto.com
WEB <http://polaris-yamamoto.com>